

---

◎議案第41号、第42号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第9、議案第41号 平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定について、日程第10、議案第42号 平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計その他未処分利益剰余金の処分についての件を一括議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第41号は、平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定について、議案第42号は、平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計その他未処分利益剰余金の処分についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（企画観光課長 山本 公君 説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○3番（長嶋精一君） 17ページのキャッシュ・フローでございますが、これを見ますと、現金預金が1300万円、このような状態でもし今期進んでいくとするならば、必ず資金ショートが起きるというようなことがこれで判明しているわけですね。

それで、私はこれをどうするかということじゃなくて、それをどうするかということを知りたいんですね。もっと抜本的に聞きたいんですけれども、かつて助役をやられた白井さんが昨年ですか、いろいろと教育をしまして、確かに社員教育、これは見事な成果を収めていると思うんですよ。それが11ページのお客様のアンケートの結果に出ていると私は思っています。ただ、そうであったとしても、この欠損、赤字というのは、厳然としてあるわけですね。これはいったいどういう・・・、構造的な問題があるのかというようなことですね。それを除去していかないと、メスを入れていかないと、また来年になったら、また6期連続の赤字というようなことで、ここでまた説明をしなければならないという事態はわかりきっているような感じなんですよ。

町長、ここで問題点は何なのか。それをどういうふうにしたらいいのかということをお尋ねしたいんですけれども、よろしくお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） まつざき荘の決算につきましては、2000万円のマイナスとい

うようなことで、6年ですか、赤字が続いておりまして、町の方といたしましても、改善に向けて努力はしているところでございます。

先ほどお話のありました、白井さんのお話がありましたけれども、アドバイザーということで入っていただきまして、職員の指導もとより、あるいは営業面において「こういうことをしたらどうか」というような提案もいただいております、それらも実施していると。その結果、アンケートの評価というようなこともありますし、評価点ですね。いろいろ「じゃらん」とかの評価点も上がってきているということで、その面は非常に改善されてきているのかなと思います。

ただ、まつぎ荘につきましても売上をとにかく上げていかなければならないという部分がまず一つありまして、それらに対しましては今までなかなか行けなかった営業活動みたいなものも総支配人あるいは振興公社の事務局長が中心となって営業活動を展開しております。また、各種のプランも設定したりしておりますけれども、それらのまずお客様を増やす部分のことも当然実施をしておりますし、費用的な部分でいきますと、借り換えによりまして、その率を下げさせていただいて負担を減らすというような部分がございます。

振興公社の委託料と収入という面におきましては、委託の費用と収入を見ればプラスになっておりますけれども、減価償却で償還の関係を見てまいりますとマイナスになっているというような経過がうかがい知れるわけでございますので、いずれにしましても、経費を削減できるところは削減をして、収入を増やす部分は誘客を図っていくということしかないのかなと思っております。

キャッシュ・フローの関係で、1300万円ほどしかないということで、どうするんだというお話もありましたけれども、いずれにしましても営業成績ですか、お客さんに来ていただいて売上を上げていくということに全力を傾けていかなければならないかなと思いますし、今後資金ショートというようなお話もありましたけれども、それについては、また・・・、今どうすればいいのかということはあると思いますが、一時借入をさせてもらうのがいいのかということはあると思いますが、それ以前としてお客様に来ていただくような対応をしてまいりたいと考えております。

○町長（齋藤文彦君） まつぎ荘に関しては、もう削減するところは削減して、かなり削減していると思います。ただ、職員の給料うんぬんの話があるわけですが、いま本当に安い・・・、安いと言ったら悪いですが、一生懸命やっているわけで、職員の給料を下げるというようなことはできませんので、本当はまつぎ荘にたくさんお客さんが来てくれ

れば解決するわけで、振興公社とかまつぎき荘だけでなく、松崎町全体でまつぎき荘にお客さんを呼べるようにやっているところでございます。

昔、国民宿舎のまつぎき荘が本当に元気なときは、自分たちは岩地に帰るときに山本造船の上から本当に満艦飾で、まつぎき荘が輝いていたのを見ていて本当に松崎の観光のシンボルだなと思ったわけですがけれども、いま非常に厳しいところがあるわけですがけれども、やっぱりまつぎき荘にお客さんに来ていただいて、たくさん来ていただくしか方法はないなと思っているところでございます。

○3番（長嶋精一君） 町長からお答えをいただきましたけれども、やはり私は構造的な大きな問題があると思うんですよ。民間企業が、企業再生を図ることの・・・優先順位があって、優先順位第一は、徹底的に経費をそぎ落とすということなんですよ。そうしないで、いくら売上を伸ばそう伸ばそうといったって、ざるで水をすくうということになる。だか、理想は、構造を改革して、経費を抑えて、同時に、同時にですね。営業部隊が徹底的に営業をかけるという、これをやるのが一番望ましい。

それで、町長、私は考えることは、こういうプロといいますか、旅館業とか、民間企業でやってきた人間でもいいですけども、やっぱりプロジェクトチームみたいなものを作って、今までの何とか会長、何とか会長というんじゃなくて・・・、その人たちをばかにしているわけじゃないですよ。じゃなくて、本気になって、しがらみがなくて、そういう人たちを集めてまずやってみると、やってみるということでない、同じことの繰り返しになるでしょう。なるんじゃないでしょうか。

私は、納税者としてもこのようなことは、ちょっと容認できないんですよ。だから、町長のおっしゃる人格者的な気持ちはわかるんですけども、それとこれとは別だと思うんですよ。やっぱり収益をある程度出さなければいけない。これだけの借入金を抱えているまつぎき荘、収益をものすごく上げるというのは目標でなくてもいいと思うんですよ。減価償却をしっかりとやって、5000万円、借入利息を払ってプラマイゼロであれば、実質利益計上ですよ。まず第一段階、そこまでもっていくということをやはり考えた方がいいんじゃないでしょうか。ぜひプロジェクトチームを立ち上げていただきたいと思います。その中に私もぜひ議員として参入したいと思います。以上です。

○町長（齋藤文彦君） 振興公社の指定管理は3年で、今年はちょうど2年目になるわけですがけれども、これから本当に3年・・・、まつぎき荘をどうするかということを非常に考えていますので、長嶋精一議員はいろいろ数字とかなんとかに詳しい、人脈もあると思いますので、

ぜひこうしたらいいだろう、ああしたらいいだろうというのをぜひアイデアをいただいて、その中で考えていきたいと思うところでございます。

○企画観光課長（山本 公君） 経費の削減というようなお話もありました。当然まつぎ荘もやっていないわけではないわけですし、物品を調達する際にも入札をしたりとか、毎月重油とかなんかは入札をして、安いところを使うような形での対応をしております。

先ほど申しましたように、借入の分の率を下げたり、償還をしたりというようなこともございますし、できるところは削減の方も進めておりますけれども、いずれにいたしましても、お客さんに来ていただけるような対策を取っていくということも当然必要なことですので、合わせまして進めてまいりたいと思いますので、また議員さんの方もいろんな提案をしていただければ大変助かりますので、よろしくお願いします。

○1番（伴 高志君） 21ページの詳細なんですけれども、振興公社委託費明細の中の負担金、観光協会、国民宿舎協会会費、これはどういったものでしょうか。内容を教えていただきたいというのが1点と、それからまつぎ荘の運営に関して非常にわかっていなくて、大変恐縮なんですけれども、振興公社というものの関係というのがはっきり把握できていなくて、15ページにありますけれども、27年度にまつぎ荘に関する協定で、振興公社からまたお金が出ているということなんですか。ご説明願えますか。

○企画観光課長（山本 公君） まず、負担金の関係でございますけれども、松崎町観光協会への負担金ということで、旅館民宿ですとか、観光協会に加盟している松崎町の方が会費ということでお支払いしている額になりまして、それが10万200円あるということになります。

ですから、それらを活用して、観光協会は観光宣伝を行ったりとか、運営費を出したりとかという形になっておりますので。

それから、国民宿舎協会負担金というのもやはり国民宿舎協会というのがありまして、現在105くらい加盟していたかと思っておりますけれども、その会費というお金になります。またホームページの中とかでまつぎ荘なんかをPRしていただいているということもございます。

それから振興公社の関係ですけれども、松崎町振興公社の方へ、伊豆まつぎ荘をはじめ伊豆の長八美術館等々の管理の委託をしております。観光施設につきましては5年間、ですから、26から5年間。まつぎ荘については3年間ということで契約を、そちらの方に運営を任せますよという契約をさせていただいて、その中で契約金額というものがありますけれども、まつぎ荘としてお願いをする金額というものがこの金額になるということです。ですから、ほかの観光施設についても年度契約を結んでお金を委託料として払っております。

す。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はございませんか。

○5番（藤井 要君） 20、21ページあたりでお聞きしますけれども、第1点、飲食材料費が5000万円からかかっていますけれども、食事が4500万円ですね。この中で地場物と外からの仕入れがあるけれども、だいたい大まかな数字で結構ですので教えていただきたい。

そして21ページの方になりますけれども、先ほどプラントの方で出ましたけれども、これは委託料の関係が550万円、これは明細が右の方にありますけれども、今の委託の状況はどうなっているのかということをお聞きしたいということで、2点ほど。

○企画観光課長（山本 公君） まつぎき荘の仕入状況ということでよろしいですかね。食事材料費の関係のうち、町内が2057万円くらいですかね、税抜で。だいたい45パーセントくらいが町内の仕入れになります。飲み物の関係なんかもありますけれども、飲み物ですと76パーセントくらいというようなところでございます。

管理委託の関係ですけれども、主に随意契約という形の中でこれまで契約をさせていただいている・・・、これまでのノウハウですとか、あるいは内容について知っているということのなかで随意契約をさせていただいているというところがございます。

○5番（藤井 要君） いま随契ということでございましたけれども、先ほども温泉会計の方で見直したら大幅にということもありました・・・、水道ですか、温泉でよかったか、さっきの関係で・・・。

○議長（稲葉昭宏君） プラントです。

○5番（藤井 要君） プラントでありましたけれども、そういうような考えは、これからはもつ気があるのか、ずっとこのままでいくのかということで、お考えを・・・。

○企画観光課長（山本 公君） 経費の削減というようなこともありますので、可能であるものはまた見積もりを徴した中で対応できるものは対応していきたいと考えております。

○5番（藤井 要君） じゃあ、検討課題ということでしょうけれども、一応見積りを取ったりとか、そういうことはしますよという確約でよろしいですね。わかりました。

○議長（稲葉昭宏君） 暫時休憩します。

（午後 1時58分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時10分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 質疑を続けます。

○3番（長嶋精一君） 一つは質問で、もう一つは提案ということだと思います。一つ質問というのは、借入額ですね。三島信用で借りたのを借り替えたんですね。借り替えた。

それで、15ページに載っていますけれども、前年6億4000万円万円の残高、それで、今年度から6億円ということは4000万円減っているわけですね。それで、聞きたいことは、毎年いくら返済していたのか。三島信用金庫がいくらで、他会計がいくら、それが他会計でいくらになるか、変更前と変更後、それを教えていただきたいということ。

それから、もう一つは、町長がさっきおっしゃったまつぎ荘は全町で応援したい、バックアップしたいというようなニュアンスを私は聞いたんですけども、それと絡めて、その前に役場全体が、役場全体が、職員全体がやっぱりこのまつぎ荘を応援するんだという、そのような考えで行動するのがいいかなと思うんですよ。というのは、私も議員になって間もないんですけども、全課というのが・・・、全ての課ですね。課が非常に、意思疎通があまりないんじゃないか、我関せずではないのかと、ほかの課に対して。

そうじゃなくて、これだけの人数がいるなら、やっぱりそれが、協力し合ってやっているとまたいい方向にいくのではないのかなという感じがするんですよ。だから、全町というところと大げさになりますから、まず自分のところで、課でもって、役場でもって協力しようじゃないかというふうになっていったら、私はいいいんじゃないかなと思います。以上です。

○企画観光課長（山本 公君） 借入の額がどういうふうになっているか、返済額ということですかね。

（長嶋議員「返済額」と呼ぶ）

○企画観光課長（山本 公君） 25年度ですと、三島信用金庫さんにお借りしていたのが3000万円です。

（長嶋議員「年間ね」と呼ぶ）

○企画観光課長（山本 公君） そうです。あと一般会計の方にお返ししていたのが1858万4498円ということで、4860万円くらい25年度は行っております。

平成27年度の予算においては、一般会計と温泉事業会計になっていますので、3260万円というようになります。

それで、利息の関係なんかも借り替えたことによって130万円ほどですかね。減額・・・。三島信用金庫さんのものを1.9から1.2に変えて、それを繰り上げで償還して、町から0.3に

して貸し付けておりますので、その利息の部分も減ってきているという状況でございます。

○町長（齋藤文彦君） 先ほどの長嶋議員の意見は素晴らしい意見だと思いますので、私は、まつぎき荘というのは、松崎町の町民にかわいがられなければいけないよと職員に言っているわけですが、松崎町の役場の職員もいろいろ会食とかなんとかでたくさんまつぎき荘を使っていますので、連携してこれからもまつぎき荘を盛り上げていきたいなと思っています。

○3番（長嶋精一君） これは返済額の質問で、変更前は合計すると4860万円、変更後は1000万円減ったわけですか。3260万円、要するに返済額を1000万円減らしたということですか。そういうことですね。

（企画観光課長「そうです」と呼ぶ）

○3番（長嶋精一君） わかりました。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○8番（土屋清武君） 先ほど20ページの関係で、食事材料費の関係が藤井議員から質問がされたわけですが、町長、この振興公社にまつぎき荘の事業を委託するにあたって、食事材料費を町内調達というようなことは、委託の時点においてそういうことは言ってないですか。

理事長だから、逆に言えば、本来ならば町長でありますから、町内の商店街等の育成ということも常に頭の中に入っていると思います。そういうようなことも含めると、材料費の半分しか松崎町内で仕入れていないと・・・、昔だったら、昔なんていうとあれですけども、私がいたころなんかでは考えられないわけですよ。何のためにあれをつくったのか。町内の商店街育成を兼ねたもの、そういうものが含んで、あれを建てるというようなことになっていたわけですけども、確か建てる時もそのように私は感じているわけですけども、そのことについてちょっと、町長、どのように考えているか、お願いします。

○町長（齋藤文彦君） プリンسホテルが本当に全盛のときに、松崎の商店街の皆さんが「プリンスホテルの皆さんがうんと買ってくれるよ」と、そして変わってからは「本当に全然買ってくれない」と、「ひどいもんだ」ということをよく聞くわけですけども、私はやっぱり松崎から材料を仕入れるように言っているわけですけども、いろいろ事情があって50パーセントを切っているようなところでございます。

私としては、本当に全部松崎町で仕入れてもらいたいわけですけども、やっぱり仕入れる業者の方もそれなりの努力をしないと、ただまつぎき荘が買ってくれるからいいわという

ような気持ちではうまくないなと思っているところでございます。

○企画観光課長（山本 公君） 当然町内の商店の活性化という部分も町長の方も認識して購入はしているわけですが、なかなか魚関係の調達、大量に入れるものについては、なかなか町内で調達ができない、お店なんかもなくなったりとかしている中で、外へ出してしまうという部分があるということで聞いておりますので、そういうことでご理解いただければと思います。

ただ、経営をしている部分ということもありますので、当然見積りなんかも取らせていただいた中で、仕入れをしていただいているというようなこともございますので、経営の上もかたやあるということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） 私は長いあいだホテル業に勤めておりましたので、ある程度ホテルの営業に関して関心を持っているわけですが、まず、やはり1点につきまして、宿泊稼働率ですね。39.7パーセントという数字が出ているわけですが、私が一般・・・、今まで働いていたときには、やっぱり最低6割くらいを求めて行ってきたわけですね。それでもなかなか営業が厳しいという現状があったわけです。

この39パーセント、何パーセント伸ばしていったら、借金が何年後に返済できるかという、そういう計画はおありでしょうか。

それと、もう1点、いま食材費のことで質問が出ているわけですが、私も職人をやっていますもので、ここに食材費の原価に対する関心は非常にあるわけですが、町がここに充てている材料原価ですね。材料原価費に対しての比率を教えてくださいたいと思います。

もう一つお聞きしたいのは、洗濯代なんですけれども、洗濯代が割と町の経費の中で大きなウェートを占めていると思うんですけれども、この辺に関して業者とも・・・、どういう形で委託しているのか、金額的に。ほかに移行できるのかどうか、その辺をちょっと含めてお聞きしたいなと思っているわけですが、よろしくお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） クリーニングの関係につきましては、町内にあるクリーニング屋さんに見積もりを徴集しまして、その中で安い業者さんを選定させていただいて、お願いをしているところでございます。

お客様の入込みによって当然枚数が増えてくるということがございますので、それで金額が増えてくるということになります。



食事の材料費率ですが、42.9くらいです。それで、料理の改善を、今まで料理に対していろいろクレーム等もあったものですから、料理の改善を図っていこうという中で、この材料費で料理を提供しているわけですが、お客様の方から料理の改善もされたよというようなご意見もいただいておりますので、その中で・・・、それが極端に上がってしまいますとやはり営業の方にも影響してしまいますので、その中でやっているというところでございます。

それから、26年度の予算を作るときに宿泊利用率43.8パーセント、宿泊利用者2万1900人ということの中で、それでいけばプラスになるだろうというようなことの中で、予算を組ませていただいておりますが、その数値まで到達していない結果、マイナスになっているということでございますので、26年度においては43.3、27年度においても2万1700人、43.3パーセントを見込んでおります。

○2番（渡辺文彦君） いま原材料費が42.89パーセントとおっしゃられたんですが、この比率というのは、宿泊単価に連動しますので、1万円のお客さんと3万円のお客さんではおそらく同じ原価をかけるということはおそらくあり得ないですよ、基本的には。一般的には下げるんですけれども、そこまでかけなくても料理ができちゃうわけです。ぼくらの今までの経験からしてみると。

そうすると、この原材料費が割と高いところにあるというのは、宿泊単価が低めの設定になっているのかなという感じがするんですけれども、料金ですね、宿泊の単価の。それを上げていけば原材料費の比率はおそらくもう少し落ちていく、逆に下げていけば上がっていくということにはなると思うんですけれども、今の入込状況を考えると上げるということは非常に厳しいのは事実だと思います。

この今の数字の中においても42パーセントというのは、自分らも・・・、一般民間でやってきた経験から考えると異常な数字なんですよね。3割から3割5分が限度なんです。それを考えると、もう少しこの辺は見直す余地はあるのかなという気はします。僕も職人をやっていますから、料理をいじるというのは非常に大変なことはわかるんですけれども、更なる工夫は必要のかなという感じはいたします。

○観光施設管理係長（舩津直樹君） 今の原材料費の関係ですが、伊豆まつぎ荘の場合には、宿泊料金とその食事の料金というのを別個で規定をしておりますが、基本的に基本料金が税込で2700円が夕食の食事の料金になります。これに対して、だいたい42～43パーセントの原価率で材料を提供しているということです。

これは、一昨年、25年度が始まったころには、30パーセント台というところでした。議会の皆さんと一緒に鵜の岬、国民宿舎で一番稼働率がいいところに行った際にも、40パーセントは切らないようにしないと料理の見栄えというのはよくないよということを言われてきた経験もございます。

まつぎ荘においても、建物それから食事等割合があまりいい状況ではなかったものですから、宿泊料金を下げて食事料を上げたという経過等もございまして、現在は40パーセントを切らない原価率で提供することによって、食事を目当てにお客さんに来ていただくということを目指しているところであります。

当然追加料理等を含めて、Aコース、田舎料理コース等々がございすけれども、公共の宿というところもございまして、できるだけ高い料金になっても原価率は同じくらいを目指しているところでございます。

○2番（渡辺文彦君） いまの説明はよくわかりました。ぼくらは、自分らは、宿泊料金の中に原価を計算されることが多かったもので、食事と宿泊を分けて計算するんでしたら、やっぱり40パーセントは切ってはいけないかと思います。

それで、こういう状況の中で、やっぱり毎年5年間赤字が続いてきているという状況を勘案して、今後宿泊客の伸びがそんなに期待できない中で、町もいろいろな、観光協会もいろいろな取り組みをしているわけですが、なかなか伸びていかないのがおそらく現状じゃないかと。この状況の中では、その中で、このまつぎ荘を思いっきり民間に委託してやってもらうという考え方はございせんか。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ・・・、振興公社が3年のときにいろいろございました。私は今のところ考えていません。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより議案41号 平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についての討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(稲葉昭宏君) 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○5番(藤井 要君) いろいろ先ほどお話が出まして、随契の関係もありましたけれども、今年は、前年度が約4000万円くらいの赤字、今年度が2000万円くらいということで、まつぎ荘の関係の方も努力しているというような跡も見受けられます。

また、これからは外国人の誘客と、また町長が台湾に行って一生懸命まつぎ荘の誘客もしてきたと思いますので、今後に期待して私は本案に賛成いたします。

○議長(稲葉昭宏君) これをもって討論を終了します。

これより議案第41号 平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手多数)

○議長(稲葉昭宏君) 挙手多数であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

次に、議案第42号 平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計その他未処分利益剰余金の処分についての討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(稲葉昭宏君) 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(稲葉昭宏君) 賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案第42号 平成26年度松崎町温泉事業会計未処分利益剰余金の処分についての件を挙手により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手全員)

○議長(稲葉昭宏君) 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

---